

第5学年音楽科学習指導案

東京都公立小学校

1 題材名 日本の音楽に親しもう

2 題材のねらい

- 曲想と音色や旋律、音階、拍などとの関わりを理解して、日本の旋律の特徴に合った歌い方で歌ったり、日本の音階を用いてまとまりのある音楽をつくったりする技能を身に付ける。
- 音色や旋律、音階、拍などを聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、それらが生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたり、それらを生かした歌い方や、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて、思いや意図をもったりする。
- 音色や旋律、音階、拍などと曲想との関わりに興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現や鑑賞の学習活動に取り組む。

3 題材について

(1) 児童の実態について

4年時の「日本の音楽でつながろう」では、『さくらさくら』を箏で弾いて日本の音楽や楽器の音色に親しむことができた。また、日本の音階を使って旋律づくりを行ったが、緊急事態宣言下であったため、グループ活動ができず、音の上がり下がり気味に気を付けながら一人で旋律をつくったが、旋律のつなげ方について学習を深めることができなかった。グループで行う音楽づくりの活動を充実させることで、試行錯誤しながら他の人と一緒につくる喜びや楽しさを感じ、日本の音楽のよさや面白さ、美しさをじっくりと味わえるようにしたい。

(2) 題材について

本題材では『春の海』で尺八と箏の日本の楽器の音色や呼びかけとこたえの面白さに気付きながら音楽を聴く。感じたことや考えたことを伝え合い、共有できるようにする。『子もり歌』では、2種類の音階の違いを歌うことで比較する。それぞれの音階の違いについて感じたことや考えたことを伝え合う。『ソーラン節』『かりぼし切り歌』では拍の有無、そして、これらの歌が仕事や生活の中から生まれてきた歌であること、拍の有無が曲想に関わること、それが仕事の内容と結びついていることについて学ぶ。最後に、学習のまとめとして協働して音楽をつくり、日本の音楽の特徴や音階の面白さを感じ日本の音楽にさらに親しめるようにする。

(3) 学習指導要領との関連

【A 表現：(1) 歌唱】

- ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
- イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。
- ウ (イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能

【A 表現：(3) 音楽づくり】

- ア (ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。
- (イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
- イ (イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴
- ウ (ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能
- (イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能

【B 鑑賞】

- ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。
- イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。

○題材で主に扱う「音楽を形づくっている要素」

- ア 音色、旋律、音階、拍
- イ 反復、呼びかけとこたえ

4 教材について

〈鑑賞教材〉

- 『春の海』作曲：宮城道雄 教育芸術社 鑑賞用 CD5年生 Disc 2 (DCT2738)
箏の音色と尺八の音色に親しむことができる。二つの楽器が音色の特徴を生かした美しい旋律や、呼びかけとこたえになっている面白さに気付きながら聴くようにしたい。
- 『ソーラン節』北海道民謡 小学生の音楽鑑賞・表現 DVD 第7巻 5年－2 NBS-777

拍節のあるリズムで歌われる北海道日本海沿岸部の民謡で、ニシン漁のときに歌われていた仕事歌である。フレーズや伴奏が繰り返されることによって調子のよさを感じることができる。

○『かりぼし切り歌』 宮崎県民謡 小学生の音楽鑑賞・表現 DVD 第7巻 5年－2 NBS-777

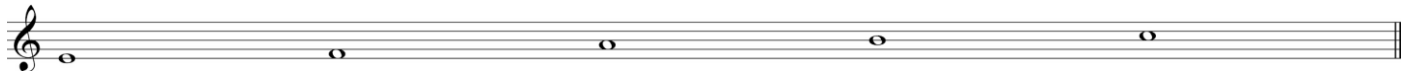
拍のない自由なリズムで歌われる、宮崎県高千穂地方の民謡で、冬場の飼料を刈り取る作業時に歌われていた仕事歌である。ソーラン節と比較することによって、歌われた背景の違いや拍の有無のよさや面白さを感じ取れるようにする。

〈歌唱教材〉

○『子もり歌』 日本古謡 小学生の音楽鑑賞・表現 DVD 第7巻 5年－2 NBS-777

律音階と都節音階の二種類の旋律が取り上げられているのでその音階のもつ雰囲気を感じ取りやすい。子供を寝かしつける優しい語りかけや愛情を感じながら、気持ちを込めて歌うことができる。

〈音楽づくり〉



この5音で音楽をつくる。5人で協働し16拍の「呼びかけ」の旋律をつくり、次に、「こたえ」となる16拍の旋律とオスティナートとして演奏する旋律を分担してつくる。

各グループは、木琴（2人）ミニ鉄琴（1人）キーボード（2人）とし、木琴の低音をオスティナートとする。

例

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 曲想やその変化と、箏と尺八の音色や旋律、呼びかけとこたえなどとの関わりを理解している。(知識)</p> <p>② 曲想と歌詞の内容や音色、旋律などとの関わりについて理解し、呼吸や発音の仕方に気を付けて自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。(技能)</p> <p>③ 曲想と旋律や拍との関わりを理解している。(知識)</p> <p>④ 旋律のつなげ方や重ね方の特徴のよさや面白さを理解し、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて16拍のまとまりのある旋律をくっている。(知識・技能)</p>	<p>① 箏と尺八の音色や旋律、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p> <p>② 二つの旋律の違いを聴き取り、それぞれの表情や雰囲気を感じ取りながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>③ 日本の音階や旋律の特徴が生み出すよさや面白さを生かして、旋律の音の上がり下がりや工夫し、どのように全体をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>① 我が国や郷土の音楽に興味・関心を持ち、日本の楽器の音色を味わって聴いたり、生活と結び付いて歌われてきた歌を歌ったり、聴いたりする学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p> <p>② 我が国の音楽に使われている音階の音を使い、旋律の特徴が生み出すよさや面白さを生かして、まとまりのある旋律をつくる学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>

6 本時の評価の進め方と期待される児童の姿

【本時の評価規準】

日本の音階や旋律の特徴が生み出すよさや面白さを生かして、リズムや旋律の音の上がり下がり工夫し、どのように全体をつくるかについて思いや意図をもっている。

【Aと判断される児童の状況】

常時的な活動の旋律を生かして旋律の上がり下がりを試行錯誤しながら友達にアイデアを提案するなどして、リズムの反復や旋律の動きを生かして旋律をつくろうとしている。

【Cと判断されそうな状況への手立て】

常時活動の音の上がり下がりの例を示し、音階のよさを生かした旋律をどのようにすればよいのか教師や友達と一緒に音を出して旋律を試すようにする。

7 題材の指導計画と評価計画（全6時間扱い）

時	○学習内容 ・ 学習活動	◇教師の働きかけ◆具体的な評価規準〈評価方法〉
第一次：『春の海』を日本の楽器のひびきと旋律の美しさを味わいながら鑑賞をする。		
1	<p>○箏と尺八の音色に親しみ、『春の海』の曲全体の構成を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を参照し、箏と尺八の特徴や演奏の仕方、また藤原道山氏の話から作曲者がイメージしたものを知る。 曲全体を通して聴き箏と尺八の呼びかけとこたえを確認し、そこからどのような風景が思い浮かんだのか根拠をもって説明する。 <p>○箏と尺八の音色や旋律の関わり合いに気を付けて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> AとBの部分に分けて聴き曲想の変化と箏と尺八の旋律の関わり方の特徴をつかみ、気付いたことを話し合う。 	<p>◇教科書から演奏者が何を考えて演奏しているのか確認する。</p> <p>◇曲想に関するものと速度や旋律の変化によるものとを分けて板書することで、曲想の変化が速度や旋律の変化によるものだと気が付くようにする。</p> <p>◆曲想やその変化と、箏と尺八の音色や旋律、呼びかけとこたえなどとの関わりを理解している。 〈知①発言内容〉</p> <p>◇教科書の楽譜を拡大して示し、AとBの部分と比較して聴き、特徴をつかめるようにする。</p> <p>◆箏と尺八の音色や旋律、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。 〈思・判・表①発言内容、ワークシート〉</p>
第二次：『子もり歌』を日本の旋律の美しさを感じ取りながら歌う。		
2	<p>○律音階と都節音階の旋律による『子もり歌』を歌い、曲想と旋律の関わりに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌にあった速度や強弱、声の出し方について話し合い、曲想に合った歌い方で歌う。 <p>○二つの旋律を、それぞれの感じの違いを味わって歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 旋律1と旋律2の雰囲気の違いを比べる。 二つの旋律の感じを生かして歌う。 	<p>◇5音でできていることや旋律の動きを確認し、歌うことで曲想を感じ取り、ふさわしい歌い方を考えられるようにする。</p> <p>◆曲想と歌詞の内容や音色、旋律などとの関わりについて理解し、呼吸や発音の仕方に気を付けて自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。 〈知・技②発言内容、演奏聴取〉</p> <p>◇二つの音階を比べ、その違いについて話し合い、それを生かして歌うようにする。</p> <p>◇生活の中から生まれた歌であることを意識して、動きを付けて歌うようにする。</p> <p>◆二つの旋律の違いを聴き取り、それぞれの表情や雰囲気を感知取りながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 〈思・判・表②発言内容、演奏聴取、ワークシート〉</p>

第三次：音楽の特徴を感じ取りながら,日本の民謡を聴く。	
3	<p>○「二つの民謡を聴き比べ,旋律や拍の特徴と曲想との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの曲を聴き比べ,旋律や拍の特徴を感じ取る。 ・『ソーラン節』と『かりぼし切り歌』どちらかを選んで歌詞や曲の特徴や拍から気付いたことや感じ取ったことをワークシートにまとめ,意見交換をする。
	<p>◇教科書の挿絵や説明,歌詞を参考に仕事している場面を想像しながら聴き,体を動かしたり,手拍子をしたりしながら聴くことで拍の違いを体感するようにする。</p> <p>◇曲の感じや旋律や拍について気付いたことをオクリンクに記入して共有し,2曲を比較しその違いやよさを確認する。</p> <p>◆曲想と旋律や拍との関わりを理解している。 〈知・技③発言内容,ワークシート〉</p> <p>◆我が国や郷土の音楽に興味・関心をもち,日本の楽器の音色を味わって聴いたり,生活と結び付いて歌われてきた歌を歌ったり,聴いたりする学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。 〈態①行動観察,ワークシート〉</p>
第四次：日本の音階を使って旋律をつくる。	
4 本 時	<p>○5人組でどのような旋律をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが反復や旋律の動き方のアイデアを紹介し合う。 ・グループの旋律を相談しながら呼びかけとなる16拍の旋律をつくる。 ・できた旋律をグループごとに発表する。
	<p>◇意見交換をしながら使用した音階のよさや雰囲気表現されているか聴き合い,練り直すように促す。</p> <p>◇拍に合わせて演奏できるように伴奏を流す。</p> <p>◇グループ全員が演奏できるようにし,つくるときに考えたことを伝え合うようにする。</p> <p>◆日本の音階や旋律の特徴が生み出すよさや面白さを生かして,旋律の音の上がり下がり工夫し,どのように全体をつくるかについて思いや意図をもっている。〈思・判・表③行動観察,演奏聴取〉</p>
5	<p>○旋律の上がり下がりやリズムを工夫して一人で16拍の旋律を一人でつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の上がり下がりや終わりの音を意識して旋律をつくる。 ・つくった旋律を演奏している様子を撮影しオクリンクに提出する。 ・できた旋律を一人ずつ演奏する。
	<p>◇同じグループで旋律を聴き合い意見を伝え合えるようにする。</p> <p>◇自分の音の動きがどうなっているのか,またどのような思いでつくったのかを記入するように伝える。</p> <p>◇拍に合わせて演奏できるように常時伴奏を流しておく。</p> <p>◆日本の音階や旋律の特徴が生み出すよさや面白さを生かして,旋律の音の上がり下がり工夫し,どのように全体をつくるかについて思いや意図をもっている。〈思・判・表③行動観察,演奏聴取〉</p>
6	<p>○グループの旋律と個人の旋律をつなげて演奏し,日本の音階による音楽のよさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5人1組になり,それぞれがつくった旋律を互いに発表して聴き合う。 ・旋律の組み合わせを考えてつなげてまとまりのある旋律をつくる。 ・つくった曲を発表し互いに聴き合う。
	<p>◇続く感じ,終わる感じや旋律の動き方に注目してグループ内で聴き合うようにする。</p> <p>◇さらにまとまりが感じられるようにリズムや終わりの音など自分のつくった旋律をよりよくする。</p> <p>◇終わった感じがする旋律になっているかを確認して聴くようにする。</p> <p>◆旋律のつなげ方や重ね方の特徴のよさや面白さを理解し,設定した条件に基づいて,即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に</p>

	<p>付けて16拍のまとまりのある旋律をつくっている。〈知・技④演奏聴取〉</p> <p>◆我が国の音楽に使われている音階の音を使い、旋律の特徴が生み出すよさや面白さを生かして、まとまりのある旋律つくる学習に主体的に取り組もうとしている。〈態②行動観察,演奏聴取〉</p>
--	--

7 本時（第4時／全6時間中）

（1）本時のねらい

リズムや旋律の動きを工夫してグループの「呼びかけ」となる旋律をつくる。

（2）本時の展開

○学習内容 ・学習活動	◇教師の働きかけ◆具体的な評価規準〈評価方法〉
<p>○旋律の動きを考えて即興的に演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの確認をする。 ・クラス全体で教師の旋律を模倣する。 	<p>◇『ソーラン節』『子もり歌』『春の海』を取り上げて旋律の動き方やリズムを確認する。</p> <p>◇拍を感じられるように16拍のまとまりが感じられる伴奏を流す。</p>
<p>リズムや音の動きを考えてグループの「呼びかけ」となる旋律をつくろう。</p>	
<p>○どのようなグループの旋律をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムや音の上がり下がり相談しながら16拍の旋律をつくる。 ・できた旋律を思いや意図を確認しながらグループ全員が演奏できるように練習する。 ・つくった旋律をグループごとに発表する。 <p>○授業を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでつくった旋律の動きやリズムの特徴についてワークシートにまとめる。 	<p>◇既習曲や常時的な活動を想起さえ、リズムや旋律の反復を生かしてつくることができるようにする。</p> <p>◇考えを必ず音で試して聴き合いながらつくるように伝える。</p> <p>◇拍をカウントして演奏をはじめるようにする。</p> <p>◇つくるときに考えたことを口頭で伝えてから発表するようにし、教師は演奏の様子を撮影する。</p> <p>◆日本の音階や旋律の特徴が生み出すよさや面白さを生かして、リズムや旋律の音の上がり下がり工夫し、どのように全体をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>〈思・判・表③行動観察,演奏聴取〉</p> <p>◇オクリンクで教師が撮影した動画を送り、旋律の動きやリズムについて、思いや意図が生かされた旋律ができたか確認する。</p>